



第5回は、全県宿泊研修以来の集合研修でした。小・中学校ともに第4回のオンライン研修で学んだことを生かした実践的な内容でした。小学校は社会科、道徳科について、中学校は各教科の授業づくりについて、教科の特質に応じて考えたり、全国学力・学習状況調査の問題から考えたりしました。また、児童生徒や保護者からの信頼確保について、具体的な事例を基に教職員間の協力体制の強化について検討しました。

小・中学校

【児童生徒や保護者からの信頼確保に向けて①】

○研修に向けて

- ▶自分のクラスに不登校の生徒がいます。家庭に連絡を入れても母親としか連絡が取れず本人と話せない事が多いです。まずは保護者と本人と信頼関係を作る事が大切だと思うのでその方法を学びたいです。
- ▶生徒との信頼関係は、日々の関わりの中で地道に構築することは可能かもしれません。保護者とは生徒との関係が影響したり、顔の見えない電話でのやりとりが多くなってしまったりします。なかなか信頼確保に向かっているという実感が持てておらず、保護者の方との関係を作ることができるか不安です。どのようなことに気を付けていけばいいのかを知りたいです。

○研修の振り返り

- ▶今日の研修では、トラブルが起こったときの対応だけでなく、事前、直後等、細かく考えることができました。情報共有一つにしても、誰からどのように情報を集め、実態把握につなげるのか、他の班の意見も参考になりました。自分が思い付かなかった意見も取り入れて、今後の対応に生かしていきたいです。信頼される教員になるために生徒のことをよく見て、少しの変化に気付き、こまめに情報共有をしながら様々な生徒と向き合っていくように明日から頑張っていこうと思います。
- ▶何かの問題が発生した場合は、連携を重視する事が重要になると改めて感じました。関係職員はもちろん、関係機関との連携を密にとり、場面对応は迅速かつ丁寧にしていきたいです。また、未然に防止するためにも実態把握や保護者への報告を随時行いながら、担任から死角になる部分については他の教員が目を光らせ、学校がより安全な場所として保護者からの信頼を得ていく事で、学校教育の幅を広げる事ができるのではないかと思います。関係職員への相談については、まずは気軽に相談できるように関係を日々構築しておく事が重要だと思います。そのためにも、まずは自分から発信して互いに情報を共有できるよう努めたいです。

小学校

【社会科授業づくり②】

○研修に向けて

- ▶社会科の授業では、資料を読み取る力を子ども達に身に付けさせたいと思っても、どのように授業に組み込むべきかがわからず、結局いつも教科書を教えるような授業になってしまいます。今回の講義や演習を通してそれらを学び、授業力を向上させたいと思います。
- ▶社会の授業では自分自身の教材研究がとても大事になってくると思っています。教材研究といっても、資料探しや子ども達が興味を持つような動画を見つけることだけでなく、教科書に載っている資料をどのように提示し、どのように活用するかがポイントとなることを前回の研修で学びました。今回の研修では、資料の探し方や子どもたちが調べたりまとめたりする際の有効的な手立てを学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶社会科の授業を考える上で、資料の読み取りはやはり大切だと感じました。国土地理院の地理院地図を活用することの良さを知ったので、今後の授業で活用してみたいと思いました。また、比較した結果から「いえること」がたくさんあるので、資料に関連性を持たせて考えさせる発問が大切だと思います。また、資料からどのようなことが分かるのかを子ども目線で事前に考える必要があると思いました。
- ▶今回は Jamboard を使用して、調べたり思考・判断したり表現しながら学習課題を解決する過程を体験しました。めざす子どもの姿に向けて、資料の何を読み取って欲しいのか、どのように比較・関連付けをするのかを明確にする大切さを学びました。また、児童が情報を収集・整理するために、教員が資料を用意するだけではなく、資料そのものの吟味・検討が大切であると思いました。教科書の資料、地図だけではなく、公的機関が発行する資料等も視野に授業づくりをしていきたいです。

【本時のねらい】
県（都・道・府）の道路や鉄道等の交通の様子と主要都市の人口について調べ、県内の交通と主要都市の位置について考えることができる。

学習問題（問い）岡山県の交通はどのように広がっているのだろうか？

②資料（教科書の画像や検索したWebページをスクリーンショットして添付してください。）

③わかること

- 県の南の方が多い
- 県の南側には交通が充実している。
- 県内に人口が集中している。
- 北の山が多いので交通は不便。
- 東西の県とは交通アクセスが充実している。
- 北の山が多いので交通は不便。
- 南には森林や山が多い → 人口は少ない
- 南：平野が広場や住宅が多い → 人口が多い

④いえること（めざす子どもの姿）※本時のねらいを確認した上で、子ども達に獲得させたい知識

県の平地の部分に人が集まり、山地は人が少ない。人のいるところに交通は充実している

②資料（教科書の画像や検索したWebページをスクリーンショットして添付してください。）

③わかること

- 岡山県の人口の分布
- 岡山県の交通
- 空から見た岡山駅
- 南側（瀬戸内海側）に人口が集中している。岡山市、倉敷市の人口が特に多い。
- 南側に鉄道や高速道路がたくさん通っている。倉敷は四国とつながっている。県庁や空港は岡山市にある。
- 岡山駅の集団（岡山市）は、ビルなどの高い建物をはじめ、たくさんの建物が立っている。

④いえること

- ①・②。鉄道や、高速道路、本州四国連絡橋が通っている所では、人口が多。県庁もある。
- ①・②・③。岡山駅周辺には建物がたくさんあることから、人が多く集まっている。
- 前時までに
関連
・工場は、海の近くに多かったが、市街地は鉄道・高速・連絡橋の近くに多い。←交通が発達していない所では、田・畑・かじり園・森林など
- ・平野の部分で、交通は発達しやすい。←つくしやすいから!!

※受講者が貼り付けた写真やグラフについては、著作権の関係上、白く塗っています。

【道徳科授業づくり③】

○研修に向けて

- ▶以前の講義で、道徳の授業づくりの方法を学びました。子ども達の振り返りに何を書いて欲しいのかを考えることで、授業がより良いものになってきていると感じています。今回の講義で、それをどのように評価していくのかを学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶道徳の評価について、実践を基に学びました。「自分ごととして考えているか」と「多面的・多角的な見方ができているか」の二つの視点で学習状況を把握する中で、まずは授業づくりでの工夫が必要だと思いました。グループワークの中で、他の人が考えた朱書きを聞くと学ぶことも多く、言い方のレパートリーや向けさせる視点一つで子どもの成長を促すことにつながってくると思いました。
- ▶道徳科の評価において、長期的に評価をしその子自身がどれだけ成長したのか個人内評価を行わなければいけないということを改めて学びました。今まで、道徳の評価においてどのようにすればよいのかイメージできていませんでした。評価の視点として多面的・多角的な見方へと発展していつているのか、自分自身との関わりの中で深めているのかという二つの視点から見ていくことが大切だと学びました。今日、実際に子どもの記述から二つの視点について探してみました。見分けるのがすごく難しいと感じました。また、朱筆の際のポイントについても学ぶことができよかったです。

中学校

【国語科】

○研修に向けて

- ▶生徒間で語彙力に差があるので、どのような発問をすれば、言語活動に取り組ませることができかを学び、授業での言語活動に生かしていきたいです。
- ▶生徒に書く活動をさせる際、書ける生徒と書けない生徒の差が生じる懸念があります。題材の設定や情報の収集、内容の検討や構成の検討等学習活動も多いです。その中で、生徒が根拠を明確にもって、自分の意見を書くために、どのような手立てが必要か、また学習活動や題材の工夫などについて考えていきたいです。

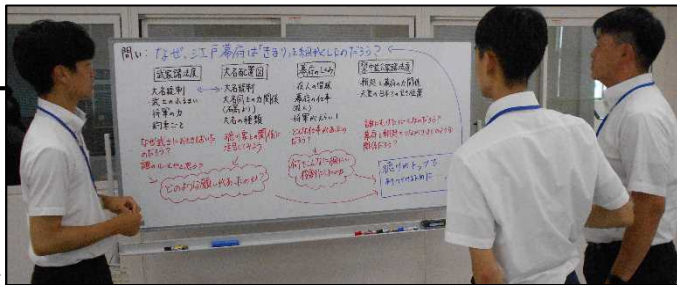
○研修の振り返り

- ▶生徒が知っている語彙の中でしか考えられないので、活動を行う前に類義語を勉強するという視点が得られました。世代が変わると言葉も変わるので、相手の知っている言葉や具体性がなければ、コミュニケーションが成り立たないということに気付かせたいです。社会生活の中で使える力を養うため、単元以外の関わりの中でも具体性をもった言い方ができるように働きかけていきたいです。
- ▶いかに身近な題材をこちらが設定し、意見文を書く前の交流を豊かなものにするかどうかが重要だと感じました。特に中学1年生においては、自分の体験から根拠を導くのが難しい場合が考えられます。より想像しやすい、そして話し合いやすい状況を作っておくことが重要になると感じました。また、意見、事実、理由づけの3観点がしっかりと充実しているかを確認するとともに、どういった構成で書いていくのかのフォーマットも指導段階に応じて示していく必要があると感じました。

【社会科】

○研修に向けて

- ▶授業をする中で「調べるだけ」の学習になっていると感じる場面があります。生徒が設定した課題に沿った情報収集や、まとめをするために教員がどのような手立てをするべきかについて考えていきたいです。
- ▶歴史的な見方や考え方を踏まえた考察や理解をするために、どのような課題を設定し、発問で思考を促していくのかを考えていきたいです。すぐに実践できること、長期的に計画を立てて実践できること、授業力の向上や生徒の発達段階の成長によって実践できることを自分の中で分類しながら学んでいきたいです。



○研修の振り返り

- ▶研修を通して、地理院地図や ICT を用いて生徒に何をさせるのかということ学ぶことができました。情報の収集、読み取り、まとめ、それぞれに身に付けさせたい技能がありました。教員の手立てによって生徒の理解が変わると思うので、生徒の一方的な発言にならない交流を行うことができる工夫をしていきたいと思ひます。
- ▶授業をするにあたって、生徒自らが疑問を抱こうとすることが求められていると感じました。教材研究をする際に、問いに対する答えに近付かせるための手立てを考えること、生徒が考え解決できるようにするために、簡単すぎても難しすぎてもいけないことに改めて気付きました。また、資料を適切に用いながら説明するだけでなく、そこに疑問を抱かせられるように意識していきたいと思ひます。1 時間の授業で伝えられることに限界はありますが、前後との因果関係を含ませることで系統的な学習が行えると感じました。明日の授業から生徒が少しでも現代社会が過去の事例に従って形成されてきたことを感じさせられるようにしたいです。

【数学科】

○研修に向けて

- ▶前回、講義の中で全国学力・学習状況調査の問題を扱いましたが、数学的に考える資質能力が必要だと思ったので、今日の講義で、子ども達に資質・能力をどのようにしたら身に付けさせられるかを学びたいです。また、それと同時に計算方法を考察し表現することを充実させる事も大切だと思うので、しっかりと今日の講義に取り組み、力を付けたいと思ひます。
- ▶図形の性質や関係を捉え、論理的に考察する力を育成するための授業づくりやソフトウェアを活用した指導のあり方について学びたいと思ひています。図形はまだ授業で扱っていない範囲であるため、先の授業を見据えてしっかりと学びたいです。



○研修の振り返り

- ▶数と式領域の話をしていく中で、一つの領域だけで展開している資質・能力ではなく、全領域に共通しているものだと感じました。この領域だからこうしないといけないではなく、今後習っていく領域を考えながら、生徒たちの未来を見据えて考察する力や表現する力、何を説明するのかを捉える力を身に付けさせる指導を心がけていこうと思ひました。
- ▶ICT の活用は意見を集約させたり個々の考えを出させる際に便利なツールだと思ひました。図形領域で統合的・発展的に考えさせるには、まだまだ geogebra を活用しきれてないと感じました。さらに活用方法を模索し必要に応じて活用できる授業づくりに取り組みたいです。

【理科】

○研修に向けて

- ▶自然の現象や生活の身近なところにある内容から学習に入れるのが、理科の教科としての強みだと感じています。身近なことから学習内容への繋げ方が授業ではあまりできていないと感じているので、どう繋げていくかを学びたいです。
- ▶実験をする中で説明に時間がかかり、うまく時間配分ができず、思っていた以上に結果が出ないことが1学期の化学分野でありました。今回は実験の中でどこに重点を置くべきかを知りたいです。



○研修の振り返り

- ▶どのようにして日常生活から子どもたちを引き込んでいくのが最も大切だと改めて実感しました。ただ、自由に発言させて疑問ばかりを持たせると、ゴールに辿り着かない可能性があることが分かりました。そのようにならないためにも、予め、生徒の予想される答えをを考えておくことも大切だと感じました。今回考えたことを、明日の授業から実践していきたいです。
- ▶細胞分裂の観察実験を通して、実験に際しての注意事項や、実験が上手くいかなかったときに生徒にどう声をかけたら良いのかを考えるきっかけになりました。また、実験を通して、何を考えさせたいのか、理解させたいのかを明確にすることが大切であると再認識しました。明日からの授業で実践していきたいです。

【音楽科】

○研修に向けて

- ▶勤務校では箏の数が少なく、なかなか授業で取り扱うことがないのですが、市内では箏の研究授業があり器楽に対しては前向きに取り組んでいます。本物に触れて実際に音を聞く器楽の実習はぜひ取り入れたいと考えています。
- ▶歌唱において何が大切か、また、発声方法などを学んでいけたらと思います。コロナ明けで生徒が声を出すことについて少しためらいがあるので、研修の授業を受けて工夫できる点を探していきたいです。



○研修の振り返り

- ▶箏の授業で、創作となると私自身も苦手意識を持ってしまいがちですが、生徒が感じたことをそのまま表現したり、友達と共有しあって視野を広げたりすることに意味があると感じました。普段あまり触れることのない箏に対して、楽しみながら演奏方法をチェックし、礼で始まり礼で終わるといったような日本の文化にも関連させながら親しんでいく授業がとても新鮮でした。また、創作活動のうえで、常にプラスの声かけをしたり、苦手意識のある子どもにはグループ活動をさせたりすることで、様々な意見に触れさせることの大切さを学びました。
- ▶研修を通して、改めてみんなで合唱することの楽しさを感じることができました。今まで悩んでいた発声練習の方法や、合唱曲指導のポイント等において新しい発見が多く、すぐに授業で生かせるものがたくさんありました。これから合唱指導の授業が多くなりますが、音やリズムをとる段階でも工夫できることがあり、曲の理解を深める中で、歌詞を読み取るだけでなく、歌詞の言葉を用いて色々な想像をさせる等、生徒が自主的に取り組める環境を大切にしたいと感じました。

【美術科】

○研修に向けて

- ▶ 前回はオンライン研修で、主題を生み出す授業づくりについての題材検討でした。今回は、参考作品を作って持ち寄り研修に取り組むので、実践的に考え、学べると思うと楽しみです。
- ▶ 前回の研修で主題の設定の重要性を学びましたが、設定した主題に向かわせる具体的なプロセスや手順が難しいと感じています。また、ものづくりや絵を描くことが得意な生徒と苦手な生徒どちらにも、考える余地を与えながら授業を進めることにも課題を感じているため、全体と個別どちらも声掛けや発問に関しての考えを深めたいと考えています。

○研修の振り返り

- ▶ 他の班の意見を聞き、導入の方法やテーマを絞るためのヒントになるようなワークシートの内容や、イメージマップの提案など様々な手段が展開されていて興味深く感じました。発問する時にも生徒の反応や回答に見通しを立ながら、生徒のつまずきを考慮して個別に声をかける必要性を学びました。
- ▶ 1学期は作品の評価に悩んでいましたが、今回の研修で作品から評価するポイントについて意見交換をすることができ、生徒が次の作品制作で上達できるようなアドバイスの仕方にも触れることができました。これからの作品評価で、評価する基準を明確にし、生徒が上達できる手立てや鑑賞する場を与え、アドバイスできる時間を設けていきたいです。

【保健体育科】

○研修に向けて

- ▶ 生徒にどのように説明すれば分かりやすいのか、どのような場の設定をすれば良いのかを詳しく学びたいと思っています。生徒が楽しくスポーツをする為にどのような授業が良いのかを考え、生徒の姿を想像しながら学びたいと思います。
- ▶ ダンスは苦手意識があり、生徒に指導し評価する上で難しい部分が多いと思います。どのような指導方法があるのか、どのように評価したら良いのか、また生徒がどのように取り組んだら良いのかを学びたいと思います。



○研修の振り返り

- ▶ 今回のねらいは、滑らかで安定した演技をめざし、連続技のつなぎ目の工夫を考えさせることでした。滑らかに安定した演技とは何かを子ども達自身で考え、どのような工夫をするのかを考えることが大切だと感じました。ゴールを先に設定して、そのねらいを感じながら自分たちで意識をもって練習に取り組んだりすることで、より活発な授業を展開することができると感じました。
- ▶ 今回創作ダンスを行って、ダンスの授業に対するイメージがよくなりました。自分が上手にできないため、不安に思っていたのですが、動画や簡単な動きを組み合わせるなどの工夫をすることで、楽しみながらねらいに向かう授業につなげていくことができると感じました。生徒だけで、すべての振り付けを考えるのは難しいとは思いますが、ユニゾンやカノンといった動きの種類や、簡単な振り付けを少し工夫することで自分たちでダンスをつくることができると感じました。

【技術分野】

○研修に向けて

- ▶材料と加工の技術において、製図は製作を行う上で一番大切な工程になるので、自分の製作品の構想図や製作図等の情報を相手に確実に伝えさせるためにはどうすればよいのかを学びたいです。
- ▶生物育成の分野は他の分野と比べて、授業時数が少なくなってしまうがちなので、少ない時間の中でも生徒たちにとって深い学びとなるような内容や指導方法を学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶製図をする目的について、改めて確認することができました。製作品の情報を正しく伝えることで、その情報を保存することや設計者の製作品に込めた意図を読み取ることができると分かりました。等角図と第3角法による正投影図の書き方について、サイコロの目を利用して書く方法が面白いと感じました。自分の授業で製図をする際は、手書きの方法に加えて3D-CADを用いた方法も試してみたいです。
- ▶生物育成の技術の内容は、どのように授業を展開するか自分自身も悩んでいたのが実践例や授業案について非常にためになる内容を聞くことができ良かったと感じました。実際に育てて育成の面白さを感じることに加えて、ICTを上手く活用してより深い学びとなるように、適した資料や情報を伝えられるようにしたいです。

【家庭分野】

○研修に向けて

- ▶前回のオンライン研修では、授業の流れをメインに検討しました。食生活の実習の分野では、「調理実習」の安全指導と安全管理等を具体的に考えました。どうすれば生徒が楽しく授業に臨み、なおかつ安全に行えるのか、ICTとどのように絡めていくのかを皆さんの意見を聞きつつ今回も新しい知識を増やしていきたいです。
- ▶生徒の実生活から課題を見出すということは、生活背景が顕著にできるため少し抵抗があります。ただ、課題を知ることによって主体的に学習することにも繋がると思うため、生徒が意欲的に取り組めるように引き出しを増やしていきたいと思います。

○研修の振り返り

- ▶各領域の初めの授業の時に自分の生活の問題点を探し、課題を設定することで、ただ授業を受けるのではなく、自分ごととして授業を受けられることが分かりました。また、領域の最後の授業の時に、初めに立てた課題に立ち返り、授業を受ける前と後でどう変わったのかを確認すると良いことが分かりました。
- ▶実践活動について詳しく学ぶことができました。特に、調理実習のことについて他の先生方から具体的な例を聞くことができ、勉強になりました。実習の時に気を付けるべき点なども覚えておきたいです。また、マシンで製作をするときの具体例も聞くことができ良かったです。生徒が主体的に学びに向かえるような授業を作るために、実践的・体験的な活動の充実についてしっかりと考えたいと感じました。

【外国語科】

○研修に向けて

- ▶生徒が英語で会話する活動の際、具体的な目的・場面・状況を設定しようとしても、説明が長くなりすぎてしまったり、生徒にとって現実味がなかったりすることがあります。もっと生徒が主体的に英語を使って会話しようと思える活動の内容とその方法を学びたいです。
- ▶会話活動の前にターゲットセンテンスをワークシートに書き込む活動を入れることがありますが、生徒がそのワークシートを会話活動の際に台本として見入ってしまい、それをなぞるだけの即興性のない活動になってしまうことがあります。書くことと話すこと、それぞれの活動をバランスよく行いながら、それぞれの活動をうまくつなぎ合わせられるような教材の作り方を学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶概要を掴む力を養う技として、ICTを有効に活用することでスローラーナーも活発に活動に参加することができるということを学びました。そして、読む力を育むためには簡単に取り組めるものから始め、徐々に難しいものにしていくというように、プロセスを踏むことが重要であることを知ったので、今後の授業に生かしていきたいです。
- ▶small talk においては、教員が例を見せ、生徒に質問や共感、予測などの必要な力を提示することで会話のラリーが続き、話す力を育むことができると感じました。その一方で聞く側も、相手の意見を考えながら聞き、さらに自分の考えを持ちながら聞くことで、聞く力を育むことができると学びました。そして、タブレット端末等を最大限活用するためには、教員がねらいを明確にすることが大切であるということや、生徒にめあてを提示することで生徒も意識を持って学習に取り組み、アウトプットの力を向上させることができると学びました。